

カンボジアの全ての子どもたちのための学校保健サービス創生事業

School Health Development Project for All Cambodian Children

2022 年中間報告 (2022 年 9 月 27 日作成)

2020 年 1 月より日本財団の助成により「カンボジアの全ての子どもたちのための学校保健サービス事業」を開始した。本事業は、東京学芸大学を拠点とする日本側と本事業の現地事務所及び KIZUNA を拠点とするカンボジア側とで取り組んでいる。2022 年 4 月から 9 月中旬までに本プロジェクトで行ってきた業務を報告する。

主な内容は、①小学校教諭養成コース用テキストの作成と配布、②学校保健担当教員の研修、③マスタートレーナーの学校保健日本研修、④TEC における中学校教諭養成コース用のシラバスの検討、⑤Teacher's Guide の作成、⑥ニュースレター第 5 号と第 6&7 号 (合併号) の配信、⑦学校保健担当教員に対する学校保健の授業開始から 1~2 か月後のインタビュー、⑧学校保健の授業を受ける小学校課程 4 年生に対する健康調査、⑨東京学芸大学生による国際学校保健活動、⑩KIZUNA の学校保健事業に対する助言、⑪カンボジアオフィスにおける現地調整業務である。その概要を以下に示す。

1. プロジェクトの主な進捗の概要

小学校教諭養成コース用テキストは、英語版を 4 月 1 日に発行した。クメール語版は、全体の翻訳と校正が間に合わなかったため、2 冊に分けて印刷、配布した。前半は 4 月、後半は 6 月に各 TEC に各巻 160 冊を配布した。

学校保健担当予定教員に対する小学校教諭養成コース用テキストの研修は、シムリアップにて第 7 回の研修 (第 9 章、第 11 章、第 15 章) を行い、バツタンバンで第 8 回の研修 (第 13 章、第 14 章、第 16 章) を実施した。また、第 15 章 (First aid at school) の追加を日本研修時に行った。

マスタートレーナーの日本研修は、PTEC から副学長を含む 5 名、BTEC からは学長、副学長を含む 5 名が参加し、8 月 26 日から 9 月 4 日の 10 日間で実施した。東京学芸大学での講義のほか、5 校の学校視察、博物館見学など、充実した内容で実施した。

中学校課程の学校保健テキストについては、すでに渡してある英語版のシラバスについて、PTEC Set Seng 学長、Sam Chanphirum 副学長と面談し、意見交換を行い、それに基づき修正を行うことにした。また、現在研修を受けている学校保健担当教員の授業担当について、必ず担当させてほしいとの要望を行った。

PTEC との協議の中で、小学校教諭養成コース用テキストに基づいて授業を行う際に、これまでにない科目であるため、Teacher's Guide を作成してほしいとの要望があった。教授法を含めた Teacher's Guide の作成にとりかかり、日本研修で素案を提示した。

ニュースレター第 5 号、第 6&7 号 (合併号) を配信した。

事業評価の一環として、学校保健担当教官を対象にしたインタビューを行った。1 回目は、授業を行う前に実施予定であったが、準備が間に合わず、5 月の実施となった。トランスクリプトを作成し、現在分析中である。

また、授業による学生の健康行動の変化を探るために、4 年生を対象に学生健康行動調査を実施した。5 月から 6 月にかけての実施になったため、すでに授業が数回行われた後となってしまった。事前調査と事後調査を行う予定であったが、今年度は 1 回の調査データを分析することにした。

東京学芸大学生の国際学校保健活動では、養護教育コースの新入生を対象にプロジェクト説明を行ったところ、10 名が関心を示し、活動するメンバーとなった。1 年生から 4 年生まで 19 名の学生が何らかの活動を行っている。小学校教諭養成コース用テキストの問題作成、2 回のセミナー (講演会) の実施、日本研修では学生による大学紹介を行った。

KIZUNA の学校保健事業に対して、5 月 4 日より 6 日までコクコン州でのモデル事業に参加し、助言を行った。また、第 6 章、第 11 章 (5 月 13 日)、第 12 章、第 14 章 (9 月 15 日) の紙芝居案について助言を行った。

上記の事業を進めるために、カンボジアオフィスは、現地と学芸大学との間で、調整業務に取り組んだ。

2. 小学校教諭養成コース用テキストの作成と配布

英語版テキストを4月1日に発行した。

(資料1、本文は <https://drive.google.com/drive/folders/1TZZy2XTBjDtb0XNKIKCGuAA6h8RHBaw> を参照。)

クメール語版は、全体の翻訳と校正が間に合わなかったため、2冊に分けて印刷、配布した(資料2)。(レイアウト会社によるPDFは、前半 <https://drive.google.com/drive/folders/1xjVIsfYrj1tZjf6-e1f5QPUhpcEeMLxl>、後半 <https://drive.google.com/file/d/1uPZ1WYvErFRKfyMKw9kRYKexmD0ENSMI/view?usp=sharing> を参照。全体は <https://drive.google.com/file/d/1aB-7E40UgNeJwi4DNrnv9tMvKt09-Zgo/view> を参照) 前半は4月、後半は6月に各TECに各巻160冊を配布した。本年授業は、テキストの改善を予定しているため、学生全員に配布し意見を聴取することにした。

現在、クメール語版は学校保健局の校閲を受けており、指摘内容を修正・改善したのちに、形式を整えて出版する準備に入る。

3. 学校保健担当教員の研修

(1) 第7回学校保健トレーニングの開催

学校保健担当予定教員に対する小学校教諭養成コース用テキストの研修は、2022年4月27日から29日の3日間シムリアップ(Tara Angkor Hotel)にて第7回の研修を行った(資料3)。研修では、第9章(Significance of health checkups and their methods、資料4)、第11章(Mental and physical changes during adolescence、資料5)、第15章(First aid at school、資料6)の内容について講義を行った。参加者はプノンペンTECとバタンバンTECの学校保健担当教官16名、各TECマネジメントメンバー、Moyes学校保健局、日本財団、KIZUNA、東京学芸大学関係者、カンボジアオフィスであった。

この研修の後のアンケートでは、“The training is well-prepared clear curriculum and have entertainment which make a good learning environment”、“The preparation of the training by project was better, participants health condition is prioritize, presentation include with practicum, Japanese professor was stand by and high ability lecture and skillful”、“I think it is important and interested, I gain knowledge more deeply in the contents and absorb more knowledge throughout these 3-days workshop”といった概ね好評価が得られた。

一方で、“There are some technical term in some lessons that have translated incorrectly, so it should be translated to the use words”、“Yes, it should have the activity that could show directly or real example more because for the theory, the lecture could do their own research”、“Some content of the lesson was a little bit difficult to understand, it should be translated and revised more in order to understand”のように、学術用語や表現の正確さ、実例の提示、文章表現の理解しやすさなど、課題も指摘された。学校保健局の校閲も踏まえ、改善すべき課題である。



(2) 第8回学校保健トレーニングの開催

7月6日から8日の3日間、バタンバンで第8回の学校保健研修を実施した(資料7)。研修内容は、第13章(Environmental and health/Ecohealth、資料8)、第14章(School safety and crisis management、資料9)、第16章(Disability and special education needs、資料10)であった。



4. マスタートレーナーの日本研修

マスタートレーナーの日本研修は、PTEC から副学長を含む5名、BTEC からは学長、副学長を含む5名が参加し、8月26日から9月4日の10日間で実施した。東京学芸大学での講義のほか、5校の学校視察、博物館見学など、充実した内容で実施した(資料11)。

東京学芸大学では、8月26日の研修開会式で國分学長、川手副学長から歓迎の挨拶が行われた。初日は、研修の目的、日本滞在のオリエンテーションなどを行った。プノンペンとバタンバンの TEC から、大学紹介も行われた。



2日目の27日は、午前は、養護教育講座の修了生4名から小学校、中学校、高等学校における養護教諭の活動や学校保健、学校安全等に対する実際の取り組みの紹介、カンボジア学校保健プロジェクトの2年生による学生生活紹介が行われた。午後は、第7回の補修として第15章(First aid at school)の演習を行った(資料6)。



学校視察では、29日は、埼玉県飯能市奥武蔵小・中学校、附属大泉小学校を視察し、9月1日は広島県三原市三原小学校の視察、2日は附属特別支援学校の視察を行った。三原小学校を訪問した際には、地元のケーブルテレビの取材を受け、本プロジェクトが紹介された(資料12)

https://drive.google.com/drive/folders/1yZ_ubrFjaeftooSFobINJzg8a_RKdOuF。

5. 中学校教諭養成コース用のシラバスの検討

中学校保健教諭養成コースのシラバスに関しては、2022年5月3日にプノンペン TEC 学長と副学長との打ち合わせを行い、内容が多いとの指摘を受けたので、それに基づき内容を精選しスリム化することを約束した。

また、プロジェクト側からは、現在研修を受けている学校保健担当教員の授業担当について、必ず担当させてほしいとの要望を、5月17日付の文書で申し述べた(資料13)。

6. Teacher's Guide の作成

小学校教諭養成コース用テキストに基づいて授業を行う際に、これまでない科目であるため、Teacher's Guide を作成してほしいとの要望があった。レッスンプランを含めた Teacher's Guide の作成にとりかかっている。10月には英語版の草案を作成して、TEC と協議を進めていく。

7. ニュースレター第5号、第6&7号の配信

2022年5月10日にプロジェクトニュースレター第5号(資料14)、7月28日に第6号と第7号の合併号(資料15)を配信した。カンボジアにおける主な配信先は、TEC 学校保健担当候補教官、TEC マネジメントチーム、学校保健局である。Facebook でも社会に発信している (School Health Development Project、<https://www.facebook.com/shcc.project>)。現在、カンボジア側への活動報告のほか、カンボジア側と日本側の交流としての役割を兼ねている。

8. 事業評価にかかわる調査研究 (教官へのインタビュー調査と学生の健康行動調査)

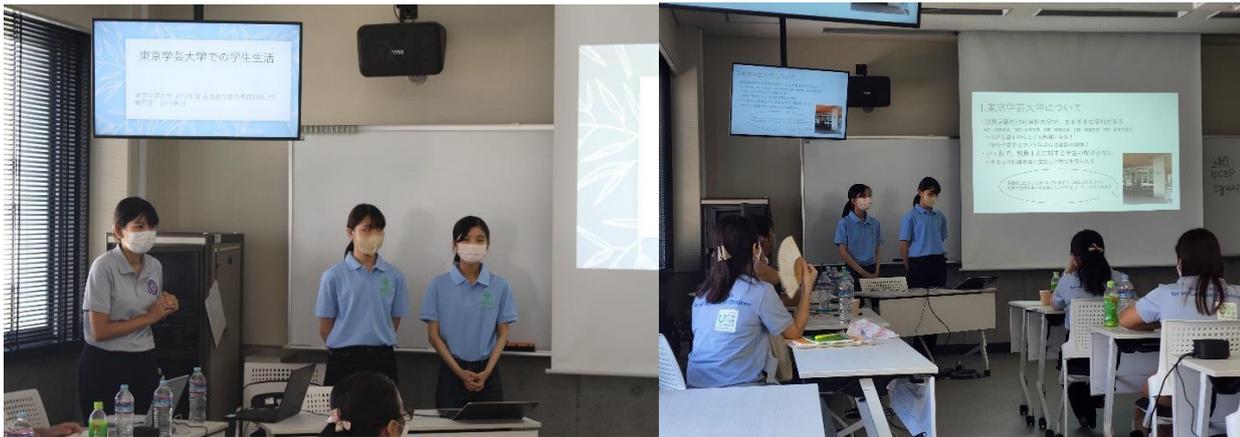
事業評価の一環として、学校保健担当教官を対象にしたインタビューを行った。1回目は、授業を行う前に実施予定であったが、準備が間に合わず、5月の実施となった。トランスクリプトを作成し、現在分析中である。

また、授業による学生の健康行動の変化を探るために、4年生を対象に学生健康行動調査(英語版調査票は資料16)を実施した。5月から6月にかけての実施になったため、すでに授業が数回行われた後となってしまった。事前調査と事後調査を行う予定であったが、今年度は1回の調査データを分析することにした。データ入力とデータクリーニングは終わっており、現在分析中である。インタビュー調査、質問紙調査は、分析結果を国際学会、英文学術誌等で発表する予定で、検討している。

9. 東京学芸大学生による国際学校保健活動

東京学芸大学教育学部養護教育専攻の学生のうち、国際学校保健に関心のある学生（4年生1名、3年生2名、2年生6名、1年生10名）がプロジェクトのサポーターとして活動している。小学校教諭養成コース用テキストの問題作成、2回のセミナー（講演会）の実施、日本研修における学生生活紹介の発表（下の写真）を行った。

国際学校保健セミナーは、5月20日にカンボジアオフィスの増子夕夏さんが「Road to Angkor Watt」(https://drive.google.com/drive/folders/1i4j2f9bUuCci_t3fPn33Q8qnbhqDh13Y)というタイトルで、シェア東ティモールスタッフの巢内秀太郎さんが「「東ティモール」で働くということ」(https://drive.google.com/drive/folders/1K84KG0sk_jQVTgAsbTeLmehTT2shaQbv)というタイトルで講演をして下さり、学生と活発な質疑が行われた。



10. KIZUNA の学校保健事業に対する助言

KIZUNA とソーシャルコンパスが共同で作成している中学生向け保健授業用アニメーション教材・紙芝居の内容について、日本側のテキスト執筆者から助言をした。基本的には、このプロジェクトで作成しているテキストの内容を簡潔に伝えるアニメーションであるため、テキストの内容の観点からアドバイスを行っている。5月13日に第6章（生活習慣病予防）、第11章（思春期の体と心の変化）、9月15日には第12章（メンタルヘルス）、第14章（学校安全）の紙芝居案についてアドバイスを行った。

5月4日より6日までコクコン州での KIZUNA のモデル事業を視察し、助言を行った。

11. カンボジアオフィスにおける現地調整業務

上記プロジェクトでの活動において、カンボジア国内で行われるものについてはカンボジアオフィスにて調整業務を行った。

1) 小学校教諭養成コース用テキストの作成と配布

現地印刷業者にて印刷後国内宅配便にて各教員養成大学に送付し、大学4年生が保健の授業に際して1人1冊ずつテキストを手にとりできるように準備した。

2) 学校保健担当教員の研修

第7回・8回トレーニングは第2回から6回までと異なり、コロナ感染対策の緩和化に向かう中で、日本からの出張者のカンボジア滞在手続きやカンボジア教育省学校保健局からの複数名のゲスト招待の手続きも行った。首都でありプロジェクトのオフィスが設置されているプノンペンを離れ、第7回はフィールドトリップにアンコールワット見学を含むためにシェムリアップ州にて、第8回はバタンバン教員養成大学の授業視察を含むためにバタンバン州で開催するための準備・運営を行った。

3) マスタートレーナーの日本研修

日本研修参加者の渡航手続きを行った。具体的には東京学芸大やカンボジア教育省からの invitation letter 手配、航空券とビザ、海外旅行保険の手続き、渡航前 PCR 検査と陰性証明書の取得手続きなどである。また、日本人スタッフ 1 名（プロジェクトコーディネーター）・カンボジア人スタッフ 2 名（プロジェクトオフィサー）が全行程に随行し、カンボジアと日本両国内で日本研修のサポート業務を行なった。

4) 事業評価にかかわる調査研究（教官へのインタビュー調査と学生の健康行動調査）

カンボジアオフィスのスタッフ 2 名に加え、2 名のカンボジア人リサーチャー（両名とも王立プノンペン大学にて開発学の修士課程修了）に依頼し、教官へのインタビュー調査と学生の健康行動調査を全行程クメール語にて行なった。朝倉教授に提出する準備として、インタビューのトランスクリプト作成と健康行動調査のデータ入力をカンボジアオフィスにて担当した。

5) KIZUNA の学校保健事業に対する助言

KIZUNA と本プロジェクトの日本人教授間のスケジュール調整等を行い、学校保健のプレサービスとインサービス両プロジェクトの相乗効果創出のためのコーディネーションを担当した。

12. プロジェクトスタッフの異動

2022 年 4 月にスタッフの交代があった。国際課では、これまで事務を担当していた泉真季子が異動し、中嶋るいが新しく担当者になった。プロジェクト研究員の鈴木春花が退職し、上野真理恵が特命助教として就任した。